

柔道整復師養成校学生に対する課外見学実習の活動

—たかすジョギングフェスティバルトレーナールームの例—

小野寺 恒己

東町整骨院

Extracurricular visit training activities for Judo therapist students

-Example of a trainer room at Takasu Jogging Festival-

Tsunemi Onodera

Higashimachi Judo-Therapy Clinic

Key words : Field training (実習)、Judo-therapist (柔道整復師)、Athletic trainer (アスレチックトレーナー)

【はじめに】

柔道整復師養成施設カリキュラム¹⁾は、平成30年度から変更され、学内実習以外でも単位として認められるようになった。その対象は、養成付属の臨床実習施設や整骨院・接骨院などの施術所を基本とし、整形外科や救急医療を行う医療機関やスキー場における救護所等のスポーツ施設及び機能訓練指導員を配置している介護施設等が例示されている。

著者は、平成14年以降、柔道整復師養成専門学校²⁾の非常勤講師として、マラソン大会におけるアスレチックトレーナー活動に著者自身が参加する際に、学生(主に3年生)に参加を呼びかけ、希望者を引率し、ランナーへの対応の見学実習を指導してきたが、学生の参加者数は「案内の年」によってかなりバラツキがあった(0から10名)。なお、養成校の授業・単位とは全く関係のない自発的参加である。

本稿は、令和元年に「たかすジョギングフェスティバル」でのトレーナー活動に学生を引率した活動報告と自発的見学実習への参加・不参加の要因を明らかにするために実施した質問紙調査の結果である。

【学生の引率】

H 専門学校柔道整復師学科の1年生39名に対して

案内し10名(男子7名、女子3名)の希望者を引率した。なお、参加者には、主催者から交通費と弁当が支給された。

【見学実習スケジュール】

見学実習スケジュールは、朝6時30分に、JR新札幌駅に集合し、著者が運転するレンタカーと同校鍼灸学科2年の柔道整復師の運転する自動車に分乗した。会場である鷹栖町までの片道約90分間に、車中特別講義として、著者の担当講義(社会保障制度、職業倫理)とは違う、実務的・基礎理論的講義を行った。

大会会場での著者及び他の柔道整復師による約4時間の施術見学実習を終えた後の帰路は、2名のみ乗車車両を変え、約90分間の車中特別講義を行った。

【質問紙調査の方法】

参加学生の同学年の38名を対象として質問紙調査を実施し、25名から回答を得た(回答率65.8%)。

質問項目は、スポーツ歴(中学、高校)、整骨院・接骨院の通院歴そして、本件見学実習の参加の有無、参加希望の理由、参加できなかった理由、不参加の理由、車内講義の感想であった。

【結果】

陸上競技のスポーツ歴を有する者が、中学では5名

(20.0%)、高校では4名(16.0%)であった(S.A.)。整骨院への通院歴では、通院歴がない者が4名(16.0%)、本件見学実習参加者・参加希望者が12名(48.0%)で(S.A.)、その理由では「トレーナーへの興味」、「柔整臨床への興味」が10名(83.3%)、「トレーナー活動への興味」が9名(75.0%)と高く、「マラソンへの興味」が5名(41.7%)と低かった。参加しようと思わなかった者は各1名であったが「マラソンに興味がない」、「トレーナーの臨床に興味がない」、「面白くなさそう」、「休日は自由にしたい」、「スポーツトレーナー学科の行事と重複」という理由であった(M.A.)。車中講義については、「聞き取れた」が9名(100%)、「興味を持った」が6名(66.7%)であった(M.A.)。本件実習以外の同様の実習(調査日の約2ヶ月後)については、「見学したい」および「見学したいと思わない」がそれぞれ5名(20.0%)、「わからない」が14名(56.0%)であった。

【考察】

著者は平成26年以降、同校の3年生を対象に参加案内を行ってきたが、参加者は0名から今回最多の10名(1年生)であった。毎年、参加案内をしてきたが、希望者は年度によってバラツキがあったため今回質問調査を実施し、「参加・不参加」の理由を探ろうと試みた。経験的に、その年度及び学級による「雰囲気」が関与しているように推測したが、本調査では明らかすることができなかった。

早朝の集合時間と、その対価(得られるであろう知見)について詳細な説明をせずに案内したことは、真に「ヤル気」のある者を抽出する意図があった。養成校の講義では単に与えられる知識が多いことと、引率するには人数制限せざるを得ない事情(レンタカーの定員等)のため、自発的に知見を得ようとする者を選別する結果になり、最終的には14名の参加希望者が存在した。

河井(1998)²⁾によると、医療分野の専門学校生の「学習意欲」の高まりは「外的要因による学習への動機」が特徴とされている。本件は養成校の単位取得のためではではない自主参加であり、参加者希望者14

名には入学時の「志」が持続していたと考えられた。学生が目指す「柔道整復師」や「アスレチックトレーナー」への「知的好奇心」、すなわち内的要因を持った者が参加を希望したと考えられた。

【おわりに】

車中講義の配布資料に、当学会の案内・入会用紙を含めたところ、学生から「学会に入ると何か良いことがあるのか」という質問があった。実践活動から新たな調査研究課題を得ることができ、第21回日本スポーツ整復療法学会大会会場において質問紙調査を実施し、第22回大会で発表する予定である。

【注】S.A.は単純回答、M.A.は複数回答の略

【文献】

- 1) 柔道整復師学校養成施設指定規則(昭和47年文部省・厚生省令第2号)
- 2) 河井正隆(1998) 専門学校生の『学習技能・意欲』に関する調査研究—「医療分野」の学生を事例として—、京都大学高等教育研究第4号：100-110



写真：柔道整復師による指導を受ける学生

本報告の一部は第21回日本スポーツ整復療法学会大会(岡山市)で発表した。

(受理 2020年7月15日)